

令和5年度新規採用職員辞令交付式 知事挨拶

令和5年4月4日（火）

島根県知事の丸山でございます。

皆さんは昨日各配属先で辞令を受け取られ島根県職員となられたわけでございます。島根県庁を皆さんの就職先として選んでいただき、この島根を生活の地として選んでいただくこの人生の選択、決断をしていただきましたことに心から感謝を申し上げますとともに、島根県を代表して皆様を心より歓迎を申し上げます。

このような形で新規採用職員の辞令交付式を皆さんお揃いで開催するのは実に4年ぶりでございます。私が知事就任いたしました初めてでございます。皆様を前にこの歓迎のご挨拶ができることをたいへん嬉しく思っております。

私からは大きく2点のことについて申し上げさせていただきます。

1点目に島根県が今取り組んでいること、そして2点目に同じ社会人としてのアドバイスについてであります。

1点目の島根県が現在取り組んでいることにつきましてでございます。

令和2年の3月に令和6年度までの5年間の県政運営の基本指針であります「島根創生計画」を策定いたしました。「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を目指して様々な取組を進めております。

島根に生まれ育った方々に島根に戻ってきていただく、いったん進学または就職で出られた方に戻って来ていただく、そして島根で生まれ育ちでない方々についても島根の魅力に感じ入っていただき、この島根の地で暮らしていこうと思っただけ、UターンIターンといったことになりましたが、そういったことを島根県が進めていくことであります。

そのために皆様のような若い方々が、この職場で働こうと思っただけの雇用の場を増やしていくための産業振興、そして独身の皆さんが参加しやすい出会いの場の創出、そして子どもさんを育てる上での経済的な負担軽減や、保育所や放課後児童クラブといったサービスの充実など、結婚から出産、子育てに対する支援を充実していくこと、そして県民の暮らしを支えます道路、空港、港湾といったインフラ整備など、人口減少に密接に関連する様々な取組を行っております。

詰まるところは、この島根で一生暮らしていこうという選択をしていく方を一人でも増やすこと、そして島根で家庭を持とうと思っただけ、そして子ども

さんを一人とと思っている方に二人、二人とと思っている方に三人という、それぞれ人生の大きな選択、これを変えていくということになります。

それぞれの人生の選択、先ほど述べた人生の選択をしていただく方を一人でも多く増やしていくという地道な取組の積み重ねとなります。

一方で新型コロナの感染拡大、いわゆる呼吸不全などを起こして亡くなる方の比率は減っておりますけれども感染力は増しております。トータルとしての死亡者は増えております。

そして3年超にわたりますコロナの感染拡大で、飲食店・ホテル・旅館が典型であります。コロナ禍前の売上げがあがらない月が続いた期間が3年以上にわたっております。

その中で県や政府系の金融機関が低利の資金融資をして、なんとか資金繰りをつけて事業を継続していただいているという企業がたくさんございます。資金繰りというのは補助金の交付ではなく、返していただくお金でございますので、その返済というのはこれからです。

つまり、新型コロナの影響により借入が増加し、その返済をするための原資、売上げが必要な訳です。単純に考えれば、コロナ禍前以上の売上げが必要となってくるという状況でございますので、そういったコロナで生じた各企業事業者へのマイナスの影響、これを取り戻していく必要があるという意味でコロナへの対策も残っております。

そして電気、ガス、様々な原材料、皆さんが生活する上でスーパーなどで買われる様々なもの、いずれもウクライナ侵攻以降一段と上昇しております。そういった物価高騰対策にも対応していく必要がございます。

皆さんそれぞれ4月から担当となる仕事に当たっていただくこととなりますけれども、いずれの仕事も行き先は、県民の皆様的生活または事業にプラスの効果を与える、そこに帰結いたします。

従ってある意味皆さん方がやらなければいけないという仕事は、県民の皆様生活にとっては手段になります。それ自体が目的ではございません。

県民の皆様が望まれる仕事となっていくかどうかということ、それが一番大事であります。従いまして日々の仕事をしていただくとともに、自分に課されている仕事は県民の皆様にとって必要とされている、望まれている結果がでているかどうかということ、常に意識しながら仕事をしていただくということをお願いいたします。

そして、すでにお仕事の経験がある方には釈迦に説法かもしれませんが、社会人として私も30年ちょっと仕事しておりますので、社会人の先輩として、

新規採用され初めて就職された方をイメージしてお話をさせていただきます。

学生生活での学びは、学費を払われている学校などから受けているサービスとしての学びであります。

これから仕事をしていく上で身につけていかなければならない仕事というのは、学生時代の学びとは違います。教えてもらう、教えてもらって当然という立場ではない訳です。

そして仕事をする上でも、今まではそれぞれ指定された教科書があったかもしれませんが、残念ながら皆様が仕事をする場合には、仕事の業務ごとに教科書や参考書、問題集などはありません。

従いまして先輩や前任者から引き継いだ資料などを基に、どういうことをしないといけないのかをイメージしていかなければならない、そんなことが必要となりますので、手取り足取り教えてもらうという仕事、そういうことではありません。従いまして、皆様が学ぶ主体的な姿勢が必要であります。

そして大事なことは、最初から完璧にできることはありません。

皆さんは学生生活の中で、試験などで万端準備を整えて立派な成績を出していくことに慣れておられるかもしれませんが、これからは学ぶ前からいわばテストを受ける、準備をする前からテストがあるようなものです。従ってある意味、仕事をするスタートの段階では分からないこと、できないことがたくさんあることが前提です。

これを埋めていくことが、皆さんの能力の向上ということになります。学生と違いますので、学費を払う立場にはない、払っている立場にない、そんなことから、教えてもらう周囲の方々に対して教えてもらうという姿勢を持っていただくということが私はもの凄く大事だというふうに思っております。

分からないことを教えてもらうということです。分からないことを特定して、周囲の人に聞く、前任者に聞く、ということで、最初はできません。新しく就いた仕事、新規採用でなくても異動していった先の所属では最初はできません。県知事の仕事も最初から理想的な姿でできたわけではありません。

できないことを日々埋めていくというのが社会人の仕事の仕方です。そういう学びの姿勢を学生時代の立場とは違うということを認識していただいて、周囲の方、関係者の皆さんから教えてもらうという姿勢を持つこと、そして教えてもらうということは、つまり自分ができないということを認めることとなりますけれども、これは試験を受ける前にテストを受けているようなもので、できないのは当たり前です。

できない自分を恥じることなく、できないことをできるふりをせず生きる自分になっていく、という意味で教えてもらうということが大事になっていくというふう

に思います。

分からないこと、できないことがあるのは当たり前ですから、抱え込まず、皆さんが優秀であることは、新規採用の職場で仕事が完璧にこなせるということではありません。吸収するという能力がある、ということでもありますから、最初の時点でできないことがある、分からないことがあるのは当然ですから抱え込まずに、周囲の方々に疑問に感じたことを素直に聞いていただいて、少しずつ自分ができる範囲、できることを増やしていくということで日々の仕事をスタートしていただければというふうに思います。

次にこの辞令交付式や、すぐ後の新規採用職員研修におきまして、皆さん相互の横のつながりを深めていただければというふうに思います。

このくしくも同じタイミングで県職員になられたというご縁を得られた仲間でございます。

このつながりというのは、これからの人生、また仕事の中で大変貴重であります。この同じ悩みややりがいというものを共有して相談し合える人を作っていくという財産を増やしていただければ、というふうに思います。

来週からは配属先での業務が本格的に始まります。これを機会に仲を深めるきっかけとしていただいて、新規採用研修など実り多いものにしていただければというふうに思います。

私から2点のアドバイスを申し上げましたが、仕事をしていくと、迷ったり様々な苦労があると思います。そういう時には難しく考えずに、県民の皆様のためになるのはどれかということを中心に考えていただければと思います。

そして仕事だけが人生ではありません。

仕事は24時間のうちの8時間。それ以外の家族や仲間との時間を両立して、豊かな人生をこの島根で歩んでいただきたいと思います。

皆さんには、この「人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根」を作っていくという県民の皆様が望んでおられる目標に向かってともに取り組む仲間の一員に加わっていただきました。

皆さんがこれからの長い県職員としての人生の中で大いに活躍されることを心から期待いたしまして、私からの歓迎の言葉とさせていただきます。

ともに頑張りましょう。以上であります。